

健康を損じ34年末頃から自宅療養，入院等を繰返さざるをえない状態となった。然しその間病床上にあっても書類を見る等その責任感の強さは見る人を驚かせた。そして37年11月には永年勤務した北海道水産試験場を退職，以後小樽市の自宅に於いて病を養ってをられたが，遂に病にかかえず本年3月23日不帰の客となった。

今故人を追憶するに当りつくづくその畏敬すべき人となりが偲ばれ，精神的に行なわれた数々の遺業が次々と想起されるが，何としても天が博士の健康を，せめてその退職の時まででも，昔の儘に保つ様ゆるさなかつたことは返す返すも残念でならない。

切に博士の御冥福を祈る。

バラクリシュナン博士の来日

カクレイト科 Family Cryptonemiaceae のメンバーを主体に，真正紅藻類の囊果形成と分類の研究を進めているインドの Poona 大学の Dr. M. S. BALAKRISHNAN が，アメリカのワシントン大学付属フライディハーバー臨海実験所での14ヶ月の研究滞在を終え帰国の途中，5月26日日本に立寄った。さきに連絡をうけていた千原が羽田空港に出迎えた。その夕ただちに札幌に飛び，山田幸男本会名誉会長および御息の山田真弓教授（教授とはフライディハーバーで，3ヶ月一緒だった由）の歓待をうけ，翌27日北大理学部藻類学研究室の方達と会い，28日再び東京へ戻った。29日，30日には，国立科学博物館や東大水産植物学研究室を訪れ，短時間ではあったが，日本産カクレイト目やウミゾウメン目の標本を前にして，興味ある見解を披瀝した。30日夕香港経由で帰国した。

（国立科学博物館・植物・千原光雄）

本会会員 Dr. E. Yale DAWSON は，6月22日エジプトで潜水採集中，事故のため逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会